

刊夕 日三十月二

常 新 日 報

定価 一部金五 月刊五拾五 郵費五拾
 廣告料五拾五 十二字一 行金五拾五
 日曜 祭日の 翌日休刊
 発行所 常 新 日 報 社
 印刷所 常 新 日 報 社
 電話 六三〇〇
 印刷 常 新 日 報 社



創作

滅びざるもの

長瀬 直衛

「まあ厭な銀座！」
 と純子は顔を曇らせた。冬も更けて宵の銀座の空は灰色にかたまつてゐた。ベージュメントは茶色にそゞり立つて、彼等の足下に長々と横はつてゐる。
 糸人形はタンゴに疲れてゐた。彼は漠然と不平を感じた。
 「俺達のやうだ！」
 二人があゝの頃の歡喜と希望は何處へ行つたのだ。五年の結婚生活がこんなにかしい土産を持つて来ようとは……。

彼女が時に深夜に自動車の音をちつと聞いてゐる。
 淫樂とは燃えてゐた火の消えた状態を意味する轉じて釋尊の如き偉大な聖者の死を淫樂と呼ぶやうになつた
 夕闇の濃くなる中に何時までも立ち盡しゐることゝもあつた。

ノット

「欲しいものがあつたらどんな物でも言つて呉れ。俺に出来ることなら」
 三吉はポケットに兩手を突込んで、空を見上げて乍ら思ひ迫つて言つた。
 「だつてあたし何も欲しくないですもの。」
 幾分佷びる心持を感じ乍ら、三吉は別な事を考へて居た。彼女はきつと何か望んでゐるに違ひない。それは與へられないものだらうか。俺は純子を愛しようとして疲れ、彼女は愛されようとして疲れてゐる。
 「何故純ちゃん俺に我儘言はないんだ？」
 純子の澄んだ瞳が濡れ濡れと三吉に絶つて来た。
 「あたし我儘よ、貴方があなければ……」
 「え!!」
 生きて生かれないと言ふのが生きて居ない言ふのか「かへりませうよ」
 彼女は急に彼の外套を握つて言つた。
 郊外は寒い。遮ぎられない北風は紛雪さへ交へて耳も干切れて飛びさうな夕暮も自動車は魔物のやうだ。三吉は後へ後へと枯枝をふるはせてにげて行く。プラタナスの木を振り返りながらふと二人で歸つた一昨日の事を思ひ出してゐた。
 風を庇はうとして先に立つた三吉が、外套の衿から眼ばかり出して振り返つたら、純子は衿巻きも手袋も外づつて、真直に顔を向けさん／＼と涙を流して歩いてゐたのだつた。
 「あたし叱られて居るやうなのよ」
 と云つたあの時の純子の氣持が、はつきり分るやうな氣がした。
 俺は愛してゐる。俺に絶つた純子をどこまでも愛し通してゐるんだ。その時の

「あつた、あたし何も欲しくないですもの。」
 幾分佷びる心持を感じ乍ら、三吉は別な事を考へて居た。彼女はきつと何か望んでゐるに違ひない。それは與へられないものだらうか。俺は純子を愛しようとして疲れ、彼女は愛されようとして疲れてゐる。
 「何故純ちゃん俺に我儘言はないんだ？」
 純子の澄んだ瞳が濡れ濡れと三吉に絶つて来た。
 「あたし我儘よ、貴方があなければ……」
 「え!!」
 生きて生かれないと言ふのが生きて居ない言ふのか「かへりませうよ」
 彼女は急に彼の外套を握つて言つた。
 郊外は寒い。遮ぎられない北風は紛雪さへ交へて耳も干切れて飛びさうな夕暮も自動車は魔物のやうだ。三吉は後へ後へと枯枝をふるはせてにげて行く。プラタナスの木を振り返りながらふと二人で歸つた一昨日の事を思ひ出してゐた。
 風を庇はうとして先に立つた三吉が、外套の衿から眼ばかり出して振り返つたら、純子は衿巻きも手袋も外づつて、真直に顔を向けさん／＼と涙を流して歩いてゐたのだつた。
 「あたし叱られて居るやうなのよ」
 と云つたあの時の純子の氣持が、はつきり分るやうな氣がした。
 俺は愛してゐる。俺に絶つた純子をどこまでも愛し通してゐるんだ。その時の

是非!

御融通には御用命下さい
 萬事便利な御相談に應じます

三井質店
 平四・電六〇六番

胃腸病性

内科 専門
 胃腸病科
 皮膚科
 花柳病科
 性病科

松村村松
 院醫科性病胃腸
 (番七〇一電町南町平)

吸入用酸素

純度 99%

モノサシ
 マス
 ハカリ

器量計
 體溫計
 寒暖計

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

關内藥局
 電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

貨切の御用命は!

電話六四〇番
 尼子タクシーへ

是非お願いいたします
 遠乗りには特に御相談に應じます

阿康藥舖

平町古鍛冶町一
 縣社ノ下 電話四四番

耳鼻科専門

咽喉科専門

大和田醫院
 平町南町一六(電話一七〇番)

郷軍老兵相連ねて 奉天城を攻撃

來月十日の陸軍記念日に 日露戦役を偲ぶ催し数々

昨報來月十日は陸軍記念日三十周年に當るので平町在郷軍人分會、將校會、老兵會員等が當日の催物に就いて協議せる結果、平町初つて以來の陸軍記念日が展開される事になつた、先づ九日夜より在郷軍人、平商、青訓生等を日露兩軍に分けて奉天郊外の夜襲戦の模擬演習を開始し、午前八時頃には兩軍の大自兵戦を行つて演習を終了、午前十時から参加者の假裝奉天入場式が行はれる是の假裝には懸賞金が付けられるから大山元帥、乃木將軍其他各將軍の堂々たる入場式で奉天市民ならぬ平町市民を驚かす筈である

日露戦役の勇士

平町在住三十二氏

平町在住者中日露戦役當時勇名を馳せた歩兵廿九聯隊員として戰場生残りの勇士は左記卅二氏である

- 南町長谷川末吉、長橋川角兼吉、田町岩井重雄、南町青木秀次、新川町緑川留吉、古録治木澤常松、白銀町草野清治、一丁目綿引秀親、白銀小林利光、鎌田岡田千藏、四丁目鈴木與一、鎌田杉山半次、九品寺前松崎爲吉、搔樋小路味岡子之松、南町佐川辰次郎、七軒町櫻本菊藏、二丁目伊關房次、古銀冶白上正藏、城山八幡庄三郎、月見町山崎彦太郎、久保町荒川祐一、古

豫算本會召集

廿五日・左記諸案附議

- 既報平町では來る廿五日午後一時より町會を招會左記諸案を附議する
- 一、十年度歳入出豫算の件
 - 一、特別會計十年度基本財産歳入出豫算の件
 - 一、縣稅營業稅雜種稅、附加稅不均一課稅の件
 - 一、町稅賦課率の件
 - 一、町費寄附の件
 - 一、町費補助の件
 - 一、吏員定數及給料支給條例中改正の件
 - 一、傭人服務諸給與規程改正の件
 - 一、吏員旅費支給規程改正の件
 - 一、競賣規定改正の件
 - 一、町有資産却の件

磐炭分會で 實戰座談會

内郷村の催し

磐炭在郷軍人分會は來月十日の陸軍記念日當日分會員中の日露戦役出征兵四十二名が淺野記念開館で座談會を開く各町村在郷軍人でも當日此の種の催しを行ひ三十年前の戦況を偲ぶと共に非常時意識の強調に努める筈である

竣工間近な 中ノ作漁港

四月上旬盛大な祝賀式

既報江名町仲ノ作漁港の修築工事は工費二十二萬五千圓を投じ施行中だったが愈々九分通り出来上り來月一杯には竣工を見る豫定だが竣工の上は百噸級大型漁船六十隻を收容し得る理想的漁港として將來を期待され同町では四月上旬頃盛大な竣工式を擧げる豫定である

第二回卓球選手權大會

關東北個人選手權卓球大會

既報平卓球協會主催第二回關東北個人選手權卓球大會は廿四日午前八時より平第三小學校講堂に開催されるので本日午後六時より田町大塚運動具店に於いて抽籤の上組合を決定するが、出場者は東京仙臺、福島、水戸、須賀川、小野新町等の強豪に地元選手を加へて七十二名に達して居るから昨年度優勝者平町二丁目日東商會佐藤正治君の王座を目標しての優勝旗争奪戦は卓球競技の最高妙技が展開されるものと見られて居る

水産會總會

豫算原案可決

本縣水産會總會は廿三日午後一時から縣廳會議室に開き十年度豫算一萬一千圓及び事業の優良漁船表彰、船員講習會、漁肥検査事業免稅礦油の代理申請、視察員派遣等を附議更に議長以下役員改選を行ふことになり役員選舉以外は左迄問なく原案通り可決された

親睦會成る

救濟工事の男女飯野村南白土地内夏井川改

磐炭の保險議員

來月十四日に選舉

内郷村磐炭礦の健康保險組合では來月十四日全山を四區に分け組合議員の選舉を行ふが議員は組合員四千名のうち十七名で相當猛烈な競争を演ずるらしく豫想されてゐる

平町人專

回出生

△四丁目三 齊藤倉松氏長男謹一郎
△鎌田町 當時東京市赤坂

回死

△五丁目 當時双葉郡久之濱町東町鈴木清松(二八)さん
△立町 當時新潟縣中蒲原郡龜田町 佐藤キヨ(五〇)さん

生徒募集

- 一、卒業年限 兩科通ジテ一ケ年
- 一、入學資格 高等小學卒業又ハ同等ノ學力アル者へ無試驗入學ヲ許ス
- 一、申込期日 四月八日迄

石城産婆學校

校長 鷹崎千代 電話三五七番

長唄御稽古案内

三味線お唄共に晝夜御隨意
出稽古も致します
平町一丁目南川岸 (渡邊銃砲店裏)

杵屋六美

「妹を救つて下さい」と

純情の涙の願ひ

兄が 平署救済にひと肌ぬぐ

廿二日午後三時頃平署に印半纏の若い男が飛込み妹二人を救つてくれと願出た、右は久之濱町大工職阿部喜太郎(七)で三年前父親幸吉が死亡したので母まつよ(四八)と妹ちえ(六)はなよ(三)の三人を残して東京に出稼中はなよは家が貧しい為昨年十月前借五十圓で平町新田町藝妓屋の仕込つ子

ガソリンカー運轉と

停留場設置陳情

けふ町村長支會から

既報石城町村長支會は本廿三日午前十一時より平町役場會議室に於いてガソリンカー運轉に關係ある平外湯本内郷神谷草野各町村長が參集ガソリンカー停留場設置に就いて協議の結果平を中心として湯本四倉小川各驛間に一ヶ所宛都合六ヶ所の停留場を設置せられ度いと町村長連書の内容書を東京、仙臺兩鐵道局長に發した

平第一校の 作品展覽會

入賞者三百六十名 平第一の成績品展覽會は既

船匠講習會

江名濱に開く

本縣水産會では三月一日から三十日まで船匠講習會を

「非常時」強調に

日の丸辨當

けふ平第二校で實施

平第二小學校では既報の如く今二十三日皇太子殿下の御誕生日を記念し同校自治會の提案に基き「日の丸辨當(副食物に梅干一ヶ)を實施し全校児童に非常時意識を強調せしめたが實行せない児童は一名もなく頗る好成績を挙げた向今後毎月二十三日を期し一回宛つ行ふ由

健七に罰金

けふ平區で卅圓

四倉町宇原田一八四飲食店前澤健七(五)は去る一月十二日午後六時頃から曉方迄相懸郡原町旅館伊勢屋事志賀スミさん方に於て同町遠藤芳雄外數名と共に花札賭

明日の天気 今夜は南東の風 明日は北東の風 雨模様

今晚の部

- 後六、〇〇(子供の時間)
- 「ソノドの時間」
- 後六、二五 英語講座(三)
- 後七、三〇 子供と家庭の夕
- 後九、〇〇 時事解説

明日の部

- 後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組預告
- 前七、〇一 社會見學「農
- 民道場」大阪府農民道場 藍塾中繼
- 前九、三〇 子供の時間
- 「神詣水戸常磐神社中繼

植電恐喝上告棄却

正本等一味原審確定

石城郡内郷村秋山二四礦山賣買業綿引朱馬之助(九)平町白銀町一五株式賣買業正木昌太郎(三)平町田町五松本陸之丞(〇)の社會民衆黨磐城支部幹部が昭和五年六月植田水力電氣株式會社の内情を發したると恐喝し同社重役古川傳一氏から一千圓を捲上げた事件上告審は廿二日大審院で棄却され三名とも懲役各一年の原審刑が確定

松本 高課長

郡下三署を視察

新任松本特高課長は郡下三警察署初視察の爲め今朝葉郡より來郡四倉、平、植田三署の巡視を行つた

健康保險の 受賞者決す

既報來日午後一時より平署會議室で岡本健康保險課長臨席の上表彰される管内健康保險加入者三十二名に決定した

勸進帳。浦島太郎

素破らしい人氣を集めた

既報平第一小學校の學藝會は今二十三日午前九時から同校講堂に開催一般父兄を始め來賓多數あり頗る盛會を呈したが殊に四年ノ一組「勸進帳」三年ノ二組「浦島太郎」六年ノ四組「ノックアウト風邪の神」高一ノ一組「無言の行」は人氣を博した

飯野學藝會

飯野小學校では今二十三日午前九

郡聯合青年

近く評議員會

石城聯合女子青年團では来る三月六日午後二時から平第二小學校作方室に評議員會を開き豫算決算に就いて附議すると

書方研究教授

平第二小學校照谷訓導は来る二十五日尋五ノ二組に對し書方の研究教授を行ふと

平職業紹介所報告

- 回人を求める方
- △探炭夫 四十迄 日給一圓二十錢位
- △漁夫 五十迄 月三十圓
- △小商店員 十九迄 尋卒
- △豆腐賣子 四十以下尋卒 賣上の二割給す
- 回職を求める方
- △給仕 十八才佑賢卒
- △賣子 二十九才尋二修
- △漁夫 三十五才高卒
- △出前持 二十二才高卒



明治太平記

(上巻及上巻)

(作) 寺島征史
(畫) 野口

第六十回

助太刀商賣(七)

「稼業ぢや、たのまれなくとも助勢するぞ」
「有難う御座んす」
もいちど、力をこめて武骨な男の手を握つた。
「懐に吞んでをる懐劍の役立つときぢや。錆付かぬ用心をしてをくがよいぞ」
大志賀は扉の方へあいた。
「あのう」
男の紅毛服の裾をとらへた。
「もう、約そくが決まつた長居は無用ぢや」
「いゝえ、あのう……」
パークスにむけたとは違つた情味のこまやかな双眸
「何かまだあるのか」
「もう少し、話してあらしつて……よ」
「女一人の室に長居は無用ぢやといつてをるではないか」
大志賀の顔は苦かつた。
「まあ」
「パークスとは、人間が違ぞ、ハ、ハ、ハ」
其儘大股に歩いて、扉の彼方へ吸はれて行つた。
「ほんとうに、何ん、ふわからず屋なんぞせう」

おとわは、口惜しさともしさにふくれあがつた胸を抱いた。そして何故かさめくく泣いた。
「あのひとの苦しい顔……でも、それがパークスさんの笑顔よりかうれしいんですもの」

それを強要するだらう。
「やはり、助太刀屋さんに寝臺の下にかくれてゐてもらつた方が良かったわ」
おとわはしかと握つた。
たのしい大志賀の手を忘れかねた。
× × × × ×
同じ築地ホテルに、松前高田屋の手代番頭、エトロフ漁場監督の所茂平次も止宿してをつた。
なにしろ紅毛人あて込みのホテル館の事だから、はじめ異様な風采の茂平次を忌避したが金が物いふ世の中萬事が解決いまでは二階



しかと握に
大志賀の
「おれ、いゝよ」

一人泣きながら、やがてまたにつこりした。
「だけど、折角の計畫ひよ客としてゐるだけに、いやむしろ、それが専門をこころざしてゐるだけにすべて紅毛人の奴僕たることにあまんじて。これはホテルの性質として當然なこと

の上等室に、悠々閑々としておさまり返つてをられるホテルでは、紅毛人をお客としてゐるだけに、いやむしろ、それが専門をこころざしてゐるだけにすべて紅毛人の奴僕たることにあまんじて。これはホテルの性質として當然なこと

にちがひないのだ。が、茂平次は、それが随分と苦々しかつた、しかも、一ホテル館としてではなく、日本人全體が西歐文明に心酔してゐる現状に照し合して、いつさう齒がゆいおもひをした。
茂平次が料亭を演の家にきめたのは大官や財界の有力者に近づかうといふ彼一流の實利主義からだが、ホテル館を宿に選んだのもそんなところに眼のつけどころがあつたのだ。
だが、ねらつてきてみる
と、いさゝか勝手がちがふ

有給外務員數名募集

一、廿五才以上 經驗の有無を不問男女數名
固定給の外旅費支給す
御希望の方は履歴書持參來談を乞ふ
(明治十四年創立)
保險の開祖

明治生命保險株式會社
所長 平野事務所
小野事務所
平野事務所
平野事務所

レストラン 平層館
電話 624

藤沼醫院

平町・紺屋町
電話五〇七番

お醤油は……ヤマフル

醤油味噌
たひら 正宗
鯉節 食料品

金山崎合名會社

福島縣平町(電話營業部)製造工場
明治生命磐城代理店 山崎 與三郎

耳鼻咽喉科専門

平田町(電話六九一番)
病室完備
自炊便有
山内醫院
醫學士 山内 亨 吉

久全屋商店

磐城セメント會社特約店
磐城平町五丁目 電話九番九九番
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は(久)の生命なり

貸切の御用命

ぜひ・三井自動車部へ!!!
電話六八五番

◎乗合好問、合戸、澤渡方面行